

様式1

令和元年度 学校評価表

学校教育目標		凜とした「元気・感動・温もり」のある生徒の育成 ～自己肯定感の向上～												
a ミッション		「学びの変革」の推進による主体的・対話的で深い学びの実現と発信			a ビジョン		教職員が元気に笑顔で生徒の前に立てる学校			尾道市立長江中学校				
評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
主体的・対話的で深い学びの実現と発信	<教務部> <キャリア教育研究部> ○学習内容の確実な定着～わかる授業づくり～ ○全教科における「課題発見・解決学習」の単元開発（更新）と発信 ○学習内容と日常生活との関連を意識した教育活動の推進	・各教科年1回以上の授業研実施 ・各教科1単元以上の単元開発（更新） ・研究授業の公開 ・外国語ボランティアへの参加の推奨等	①生徒アンケートの「授業がよく分かる」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度85%） ②全国学力・学習状況調査における全教科平均通過率（昨年度：県差+6.8P） ③研究授業の公開回数（昨年度3回） ④英語能力判定テストにおける当該学年英検レベル到達生徒の割合（昨年度：3級（3年）64%、4級（2年）73%）	① 85% ② 県差+7P ③ 3回以上 ④ 3級（3年）65%、4級（2年）75%	① 82.2% ② +7.8P ③ 1回（計画通り実施） ④ (3年)68% (2年)未実施	① 84.2% ② +7.8P ③ 4回（計画通り実施） ④ (3年)70.6% (2年)77.0%	① 97.4% ② 111.4% ③ 133% ④ 102%	① B ② A ③ A ④ A	①各教科で授業の工夫・改善に取り組み、2学期末生徒アンケートによると「授業がよく分かる」という肯定的な回答をした生徒は全教科平均で84.2%であった。 ②全国学力・学習状況調査結果 国語78(72.8)、数学69(59.8) 英語65(56.0)（英語「話すこと」39(30.8)）※()は、全国平均を示している ③研究授業は計画通りおこなった。事前、事後研も各グループごとに内容の濃い研修をおこなうことができた。また、道徳の授業研究、地域公開道徳にも取り組んだ。 ④英語能力判定テストにおける目標を達成できた。また、みなと祭において、外国人観光客の案内役として「外国語ボランティア（英語検定3級程度以上が条件）」に28名が参加し、達成感を得ることができた。	3	3	○生徒の落ち着いた学校生活の状況は、本校の良き伝統であり、魅力でもある。是非引き続き丁寧な指導をお願いする。 ○生徒アンケートにおいて「授業がよく分かる」と回答した生徒が多いこと、学力においても市内でトップクラスの状況があり、先生方の指導とそれに応える生徒の努力の成果によるのである。 ○みなと祭において、外国人観光客の案内役として「外国語ボランティア」に参加し、英語を「話すこと」で、達成感を得て、子ども達の自信になったと思います。このような行事への参加も積極的に募ることが、自己肯定感に繋がっていると思う。	①グループ研修を通して、全教科にあてはまる汎用的な授業技術や、生徒との関わり方について整理し、発信していく。 ②授業参観や情報収集をおこない、「生徒が達成感をもてる授業のコツ」や「わかる授業づくりのポイント」を分析・整理していく。 ③全国学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年、教科と連携しながら課題克服のための授業改善策・生徒への指導、対応策を構築する。	
	自己肯定感の向上	<生徒指導部> <保健安全部> ○生徒が活躍できる学校づくり ○心と体の健康保持・教育相談活動の充実	・生徒が主体的に関わる学校行事の創造 ・生徒会活動のさらなる活性化 ・SCによるカウンセリングを活用した教育相談活動の推進	①生徒アンケートの「学校行事に積極的に参加している」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度62%） ②生徒アンケートの「生徒会活動に積極的に取り組んでいる」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度82%） ③生徒アンケートの「自分には良いところがある」旨の問いに肯定的に回答している生徒の割合（昨年度65%）	① 70% ② 85% ③ 80%	① 88% ② 63.3% ③ 61%	① 85% ② 67% ③ 66%	① 121.4% ② 78.8% ③ 82.5%	① A ② C ③ B	①体育大会や文化祭等、様々な行事の中で、3年生がリーダーとして動き、生徒主体での取組ができた。 ②文化祭や地域ボランティア活動（住吉花火清掃隊 3名/756名参加）勧誘等、生徒会が創意工夫した実践を主体的に行った。また、縦割りのグループのあいさつ運動やネットボルトキャップ・アルミ缶回収等を通して生徒同士のつながりが深まった。 ③教育相談活動の一環として、毎学期全学年級において、担任による面談を実施した。また、学期末には「いじめ・体罰・セクハラ」等に係る実態調査を行い、問題行動等の未然防止や早期対応ができた。年間を通して、相談しやすい環境づくり、そして、教師と生徒の信頼関係づくりを学校体制として進めることができた。	3	3	○自己肯定感の向上等、大変良い取組をしている。学力も大事だが、生活面での向上も力を入れてほしい。 ○他の地域から生徒が集まる本校の特色からも、多様性を生かした交流を積極的に仕組んでもらいたい。 ○今よりもっと上を目指すことは大事であり、その中で自己肯定感の低い生徒もいるが、自分を褒めてしっかり伸びていくことを願う。 ○小学校の運動会において、地域の方や小学生以下の子とも達と優しく、そして積極的に接する姿がある。今後は、隣の尾道北高校の体育祭を見て刺激を受けたり、高いレベルのイメージをもてたりする等、異年齢交流による教育の効果も期待できるのではないかと。	①『生徒が協働し、達成感を持てる取組を仕組む』リーダーを育成し、生徒による主体的に協働的な活動に懸命に取り組ませる。また、異年齢交流における教育的効果も意識した活動を仕組む。 ②『生徒会活動に縦割りで取り組むことで、積極性をもたせる』「縦割りのあいさつ運動」等、専門部長と担当教員で連携を図り、専門部長との進行や専門部の活動計画を分かりやすく専門部員に伝えていくプロセスを大切にす。 ③『生徒が心から安心して過ごせる環境づくりを進める』面談を継続し、生徒の良さをほめるなど肯定的な話を必ず入れる。

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 C：60≦（もう少し）<80
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。